

構造

☐伝統工法

- ・断熱、気密、遮音等の性能を気にしなかった。
- ・使う木材のコストで全体コストが決まる。
- ・和風の材料-何となく分かってしまう。
- ・あまり良い省力化が開発されていない。
- ・手間を掛けた方が良い造り。
- ・50万円-70万円/坪以上
- ・アパート仕様で40万円/坪以下か。

☐北米型枠組壁工法

- ・断熱、気密、遮音などの性能でコストが決まる。
- ・高性能が良い造り。
- ・北米での省力化工法
- ・40-60万円/坪以上
- ・アパート仕様で40万円/坪以下か。

配置あるいは敷地条件

☐利便性よりも自然環境を重視する。

☐自然環境よりも利便性を重視する。

- ・緑のスペースが必要
- ☐南側 ☐西側 ☐北側側 ☐東側
- ・主要な生活スペースは
- ☐地下 ☐1階 ☐2階

部屋と設備

・寝る部屋

☐夫婦寝室

- ☐たたみ+ふとん ☐シングル ☐ダブル
- ☐ベッド ☐シングル ☐ダブル
- ☐地下 ☐1階 ☐2階

☐夫寝室 ☐たたみ+ふとん ☐ベッド

☐地下 ☐1階 ☐2階

☐妻寝室 ☐たたみ+ふとん ☐ベッド

☐地下 ☐1階 ☐2階

☐子供寝室1 ☐たたみ+ふとん ☐ベッド

☐地下 ☐1階 ☐2階

☐子供寝室2 ☐たたみ+ふとん ☐ベッド

☐地下 ☐1階 ☐2階

☐_____寝室 ☐たたみ+ふとん ☐ベッド

☐地下 ☐1階 ☐2階

☐寝る部屋に必要な収納

☐寝具 ☐衣類 ☐

・食べる部屋

☐地下 ☐1階 ☐2階

☐出来るだけ自宅で食べる。

- ・いつもの朝は____人、朝最大____人。
- ・いつもの昼は____人、昼最大____人。
- ・いつもの夕は____人、夕最大____人。

☐出来るだけ店でまかなう。

☐多人数の時は店でまかなう。

☐自宅で子供たちと会食出来る空間が欲しい。

☐キッチンダイニング

☐リビングダイニング

☐食べる部屋に必要な収納

☐食器 ☐調理器具 ☐

・調理

☐調理は創作活動で楽しい。

☐調理よりも食べる方が楽しい。

☐美味しいものより片付けやすいものの方が良い。

☐食卓から見えないギャレー ☐オープンキッチン

・調理機器は

☐家庭用の小型のもの ☐業務用大火力

・家事管理

☐掃除・洗濯は好きである。

☐掃除・洗濯は誰かがやってくれると楽。

☐洗濯機は浴室／脱衣室の近く

☐洗濯機は台所の近く ☐洗濯機は寝室の近く

☐衣類整理等のために専用スペースが欲しい。

・入浴、排泄

☐浴室・脱衣室と洗濯室を台所に近く。

☐浴室・洗面所に便器を置いて寝室に近く。

☐家族・来客兼用の便所があればよい。

☐玄関脇に来客兼用の便所が欲しい。

☐寝室にシャワー付きの洗面／トイレが欲しい。

☐浴室まわりに必要な収納

☐タオル類 ☐下着 ☐掃除道具

・くつろぐ部屋

・何をしているとくつろぐか

・くつろぐ時に必要なもの、条件、収納

・来客のための部屋

☐食べる部屋を使うので特に要らない。

☐くつろぐ部屋を使うので特に要らない。

☐玄関を広くとって応接にも使う。

☐客用の部屋が欲しい。

・車

☐自己表現のひとつ。

☐只の道具。

・駐車場は_____台

☐駐車場を作業場にも使う。

☐駐車場に必要な収納

☐車の予備装備 ☐アウトドア用品 ☐

光・熱・音

- ☐敷地の余裕を利用し冬の日光を最大限に取入れたい。
- ☐庇を大きく取り、夏の日光を防ぎたい。
- ☐昼間人のいない部屋は無理に日光を求めない。
- ☐夜間の照明はなるべく明るい方が良い。
- ☐夜間の照明は最低限で良い。
- ☐必要な部分のみ、スタンドなどを併用する。

- ☐部屋を夏冬快適な温度に保ちたい。
- ☐夏は暑く、冬は寒く、
という季節感を大事にしたい。
- ☐日光を暖房にも利用したい。
- ☐太陽熱温水器を使いたい。
- ☐太陽熱発電を利用したい。
- ☐地熱を暖房に利用したい。

- ・エアコンディショナーを設置したい部屋。
☐ _____ ☐ _____・
☐ _____ ☐ _____・
☐ _____ ☐ _____・

- ・全熱換気扇を設置したい部屋。

- ☐ _____ ☐ _____・
☐ _____ ☐ _____・
☐ _____ ☐ _____・

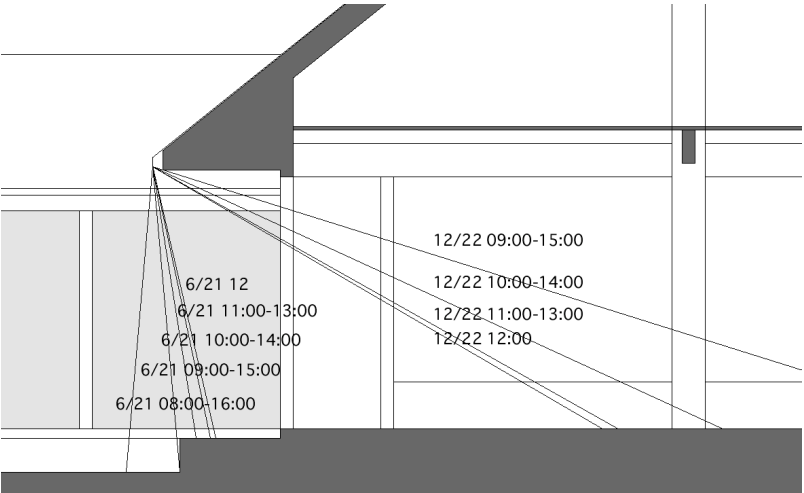
- ☐屋外の音に対し遮音を重視する。
☐2重サッシ ☐RC壁 ☐重量壁
- ☐室内の音が漏れない様、遮音を重視する。
☐プロジェクションテレビ等
☐楽器の演奏。人数と楽器は

物質

- ☐アレルゲンを含む建材は使わない。
- ☐カーペットは使わない。
- ☐プラスチックは使わない。

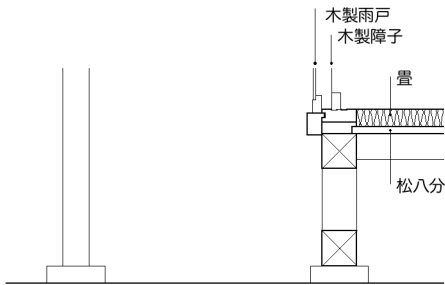
夏冬の日差しの違い

- ・庇をきちんと取ると、夏は陽を防ぎ、冬は陽を入れることが出来ます。



性能から観た床まわりの構造

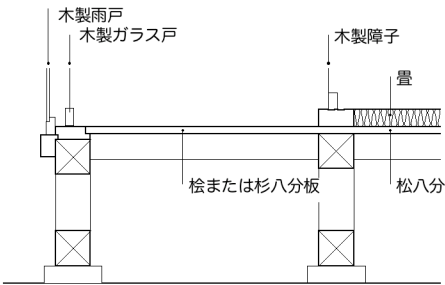
- ・断熱などの性能は最近まで江戸時代とそれほど変わりませんでした。



A

江戸時代の住宅
浜松市博物館 旧高山家住宅、掛川城等も同様

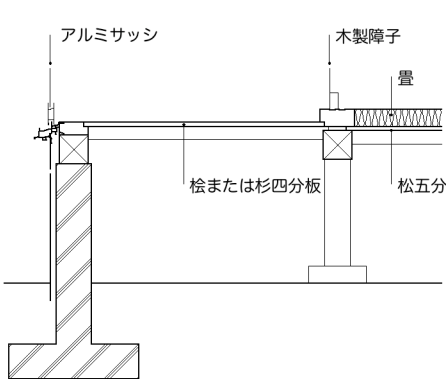
- ・室温は外気温とそれほど変わらない。
- ・雨戸は夜間の断熱用。
- ・江戸城への年始挨拶では足袋が許されたのは2万石以上であり、それ以下は裸足に草履で雪を踏んでいた時代。
- ・台所等作業空間は土間で、座敷は立って歩かない。



B

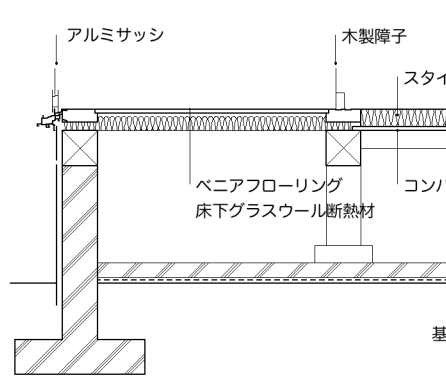
明治時代の住宅
明治村 森鷗外旧居、夏目漱石旧居、幸田露伴旧居

- ・ガラス戸が文明開化であった。
- ・四民平等で畳数の制限が外れ、やたらに畳敷きの部分を増やす。



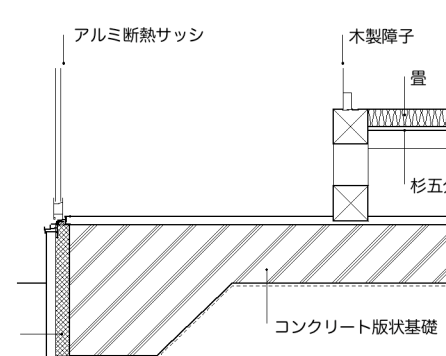
C

- 1970年代の住宅
- ・昭和11年の戦時木材統制で材木が細く、薄くなった。
- ・戦後の農村生活改善運動で土間の台所は女性蔑視、ということで台所が座敷と同じ高さになり、作業床の合理性が失われる。
- ・60年代よりアルミサッシの普及で気密性が向上した。
- ・建物全体の断熱性は江戸時代と変わらず、こたつ等で部屋毎に暖房。
- ・外国の住宅を真似してオープンプランが流行るが、断熱性が伴わず挫折。



D

- 1990年代以降の住宅
- ・高気密高断熱のかけ声で床下に断熱材を入れる。
- ・その割にはサッシがシングルなので熱は半分が窓から逃げる。
- ・米の収穫がコンバインになり、畳の芯地が国内から無くなるが、中国の農業が原因で輸入もストップ、スタイロ畳が主流に。
- ・床下防湿ということでもますます気密性高まる。
- ・高気密とグラスウールなど新建材の多用、でシックハウスが問題になる。
- ・ホルムアルデヒド入りのグラスウールに頼る外壁屋根裏の断熱材の所為で
小屋裏換気扇が義務づけられる。



E

- 最近試していることども
- ・田んぼ等心配な地盤ではコンクリートスラブ基礎とする。
- ・生活空間を土間とする。座敷を土間から400mm程度上げると、床坐と椅子座の目の高さが近くなり、空間が一体化しやすい。
- ・サッシを断熱サッシにすると、遮音上も効果大きい。
- ・木造住宅の木構造部分は床面積当りコンクリートの1/40程度の蓄熱量しかないので、外断熱で効果があるのは基礎に限られる。基礎を外断熱することで蓄熱、地熱利用が可能に。